

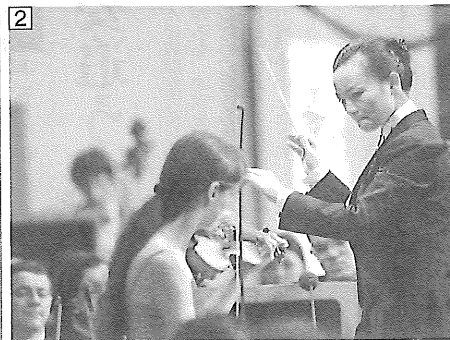
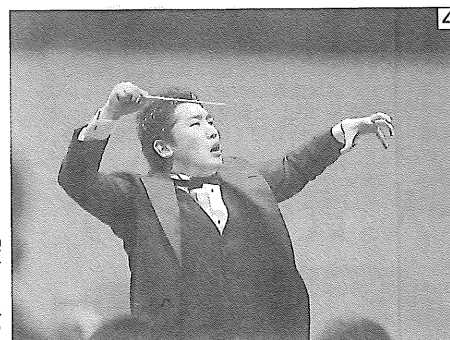
芸能



若手指揮者が5日間の成果を発揮したコンダクティング・アカデミー演奏会
＝17日、札幌芸術の森野外ステージ

若き4指揮者 ほとばしる才能

国際教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)」のコンダクティング・アカデミー(指揮者コース)が、5日間の指導の集大成となる演奏会で日程を終えた。芸術監督フランク・ルイジの教えを受けた4人の若者がPMFオーケストラを指揮し、堂々とした演奏を披露。将来のマエストロ(巨匠)の可能性を感じさせた。(石井昇)



①フアド・イブラヒモフ ウェーバーの歌劇「魔弾の射手」序曲
②ティン・チャン チャイコフスキーのバイオリン協奏曲
③アントン・トルベフ シューマンの交響曲第一番「春」
④原田慶太郎 R・シュトラウスの交響詩「テイル・オインシユビーゲル」の愉快ないたずら
――曲名は17日の演奏曲。いずれもPMF組織委員会提供

17日の札幌芸術の森野外ステージ。客席のルイジが見守る前で、正装した4人が、それぞれオーケストラと合わせてきた曲を交代で指揮した。「緊張したが、ステージに立ってエネルギーが湧いた。オーケストラの皆さんの意志を音楽にしたいと思った」。紅一点のティン・チャン(26)＝中国出身＝は、興奮さめやらぬ表情で語った。

指揮者コースは、1990年の第1回に若手を指導したPMF提唱者の故レナード・バーンスタインの遺志を継ぎ、ルイジが21年ぶりに復活させた。

オーディションは指揮の様子を収めたビデオを基に行った。応募した21人から、中国・上海音楽学院の修士課程を修了したばかりのチャンと、米国で指揮者として活動する原田慶太郎(26)＝東京出身＝、ドイツ・ケルン音大のフアド・イブラヒモフ(28)＝アゼルバイジャン出身＝、ロシア・サンクトペテルブルク音楽院のアントン・トルベフ(26)＝モスクワ出身＝が選ばれた。

レッスンは12日から5日間、集中的に行われた。最初の2日は、台のピアノに向かい、残り3日はオーケストラを実際に指揮した。

21年ぶりのコース ルイジの教え 吸収し成長

初日に「彼らの良いところを引き出し、才能を伸ばしたい」と語ったルイジ。その言葉通り、指導は「4人の曲に対する理解をオーケストラにどう伝えるか」という立場に徹した。最初は手を添えて姿勢を正したり、指揮棒の使い方を教えたりする場面もあったが、後半は彼らの意図が不明瞭な時に短く助言する程度にとどめた。

受講生たちも「技術は大事だが、指揮者にやりたいことがあるからこそ音が出てくる」という言葉に感銘した。「トルベフ」、「自分の音楽に自信を持って」と言われ、それを心掛けていく(イブラヒモフ)とそれぞれ語り、ルイジの思いをくみ取った。

「指導のすべてを吸収したい」と語っていた原田は、演奏会でトリを務め、オーケストラと一体感のある演奏を披露。気持ちよく演奏してもらうことだけ考え、自分是最小限の指示を出しただけだった」という言葉に成長ぶりがうかがえた。

「指揮のすべてを吸収したい」と語っていた原田は、演奏会でトリを務め、オーケストラと一体感のある演奏を披露。気持ちよく演奏してもらうことだけ考え、自分是最小限の指示を出しただけだった」という言葉に成長ぶりがうかがえた。